

令和7年度第2回八潮市学校適正配置指針・計画策定委員会 会議録

開催日時：令和7年10月31日（金）午後2時00分～午後3時30分

開催場所：八潮市役所会議室4-2

公開状況：公開

傍聴者数：0名

審議結果：下記のとおり

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 議事

（1）八潮市学校適正配置指針・計画（案）について

事務局：本日は、八潮市の学校適正配置計画案について、第三章・第四章を中心に説明させていただく。前回の委員会では、八條小学校、八條北小学校、八條中学校について、児童数の減少や北部地域の開発による交通状況の悪化などを踏まえ、現状維持ではなく統合を行うべきとの意見をいたしました。これを受け、具体的な統合案を第三章・第四章で説明させていただく。

・資料に沿って事務局から説明

事務局：最後に、前回の策定委員会において、委員の皆様からいくつかの案を提示するようご意見を頂戴した。これを受け、八條中学校を八潮中学校などに統合する案についても検討を行ったが、八潮中学校が過大規模校となる恐れがあることから、当該案は採用できないと判断し、今回の計画案には掲載しなかった旨を補足させていただく。

【質疑応答等】

- 委員 : 「統合等に伴いスクールバス等を導入する場合、徒歩時間の減少による体力の低下などの課題が生じることが考えられ、保護者等の考え方も十分配慮する必要があります」と記載されている点について、保護者の考え方を十分に配慮する必要があるという表現だけで良いのではないか。体力低下の懸念を強調しすぎると、スクールバス導入自体に否定的な印象を与えるのではないか。交通量増加への対応が主目的であることを明確にし、表現を再検討してほしい。
- 委員 : 歩道橋を通って通学している児童がそうでない児童と比べて体力があるかと言われるとそうではないと思うので、委員の意見に同意する。
- 事務局 : ご指摘の通り、表現については再度検討し、必要に応じて修正していく。
- 委員 : 「適切な長寿命化によって、原則として 65 年（財務省省令の 3 割増し）としている」という記載について、適切な長寿命化とは具体的に何を指すのか。耐震化だけなのか、それ以外の工事なども含むのか、詳細を説明してほしい。
- 事務局 : 現在、八潮市公共施設マネジメントアクションプランの改定を進めており、鉄筋は 80 年、木造は 50 年を目安にしている。これは、耐震化だけでなく、内部設備の更新も含めて長寿命化を図ることを前提としている。
- 委員 : 記載されている学校運営上の課題等の様々な課題やその影響は本委員会で出た意見ではなく、文部科学省の資料からの引用という理解でよいか。
- 事務局 : ご認識のとおりである。
- 委員 : 施設一体型の小中一貫校の定義について教えてほしい。私のイメージでは小学校の敷地内に中学校を建てて小学校は既存校舎を使うというのは、一体型ではなく併設型のような印象がある。計画案では一体型と記載されているが、具体的にはどのような形になるのか。
- 事務局 : 中学校校舎は小学校校舎に隣接し、連絡通路で繋がるイメージをもっている。併設型では、特別教室をそれぞれの学校で保有するが、一体型では連絡通路でつながることで特別教室を共有する形になるので施設一体型と認識している。
- 委員 : 施設一体型と併設型の違いについて、説明を明確にしてほしい。
- 事務局 : ご指摘頂いた点について説明を追加するように修正する。

- 委員 : 「令和 13 年度に開校」と記載しているが、P79 では「令和 13 (2031) 年に小中一貫校を整備」と記載している。開校と整備は同じ意味で理解してよい。
- 事務局 : ご認識のとおりである。
- 委員 : 中学校の普通教室を整備すると記載されているが、小学校については改修工事を予定しているか。
- また、八條小学校の普通教室の築年数や大規模改修の実施状況を確認したい。小学校の普通教室の老朽化が進んでいるのではないかと感じている。
- 事務局 : 特別教室棟については大規模改修が済んでいるため問題はないと考えている。普通教室の劣化は進んでいるが、長寿命化計画の中で 20 年後に改修予定である。順位的には他校の方が古い状況にある。
- 委員 : 中学校の新校舎整備にあたり、武道場などの施設は整備するのか。また、小学校のプールで中学生が泳げるのか、身長差や水深の問題もある。
- 事務局 : 武道場については、現時点では新たに専用の武道場を設置する計画はない。中学校の武道の授業は、選択科目によって柔道や剣道などがあるが、例えば剣道や相撲を選択した場合は、体育館を活用して授業を行うことが可能である。体育館のスペースや設備を工夫することで、武道場がなくても対応できると考えている。
- プールについては、水深などの安全面を考慮する必要はあるが、現在飛び込みは禁止しており、小学校のプールでも中学生が泳ぐことは可能である。加えて、現在八幡小学校では学校プールの維持管理や運営について、民間事業者への委託を行っており、その効果検証も踏まえて、民間プールの活用も含めて、より効率的で安全な運用方法を検討していく予定である。
- 委員 : 小規模特認校の今後の見通しや今後具体的に想定している場所があれば教えてほしい。
- 事務局 : 北部地区以外の市内の小規模校については、今後児童数が減少し 1 学年 1 学級となる可能性が高い柳之宮小学校が候補となるものと考えられる。
- 委員 : 柳之宮小学校では特色ある英語活動は行われているのか。
- 事務局 : 実施していない。英語活動に限らず、特色ある活動ととらえて頂きたい。
- また、小規模特認校制度については休止する方向性であり、今後は弾力的な運用を行う可能性がある学校として柳之宮小学校が考えられるととらえて頂きたい。

- 委員長：現在小規模特認校制度を利用している児童の受け皿があるとよいと考えられる。その候補の1つが柳之宮小学校となるものと考えられる。
- 委員：統合準備委員会の役割や内容について説明してほしい。
- 事務局：統合校の名称、校章、校歌、学校行事、PTA組織、通学手段などを検討する組織である。今後、他市の先進事例も参考にしながら内容を詰めていく。
- 委員：ここに書いてある学校名や校章などは間違いなく取り組んでいくことになると思うが、それ以外にもプラスアルファで検討すべき事項がかなりあるのではないかと考えている。今後、基本構想、基本計画、基本設計、実施設計、施工という流れになってくるが、その間に委員会で様々な意見が出てくると考えられる。そこで意見を取り上げて、構想から実施設計の中に具体的な内容を反映していくことになると考えてよいか。
- 事務局：時期的に確定するものがあれば、当然そのように進めていくことになる。建設という部分と、実際に開校する時点で学校名などを決めるタイミングは、少し時期が異なる場合もある。例えば、花桃小学校の場合も、施設の建設がかなり進んだ段階で学校名が決まったということがあった。
- 委員：令和8年度、9年度に統合準備委員会で検討し、令和10年度から12年度の3年間で八條小学校と八條北小学校が先行して統合するとなっているが、3年間のどの時期に統合するのか教えてほしい。
- 事務局：現状では令和10年度に統合ということでスケジュールを作成しているが、今回このような具体的な時期を示すのは初めてである。今後の状況や関係者の意見によってスケジュールは変わる可能性もある。また、本日配布している資料の中には、北部地区小中学校保護者説明会の資料も含まれている。これから説明会も開催していかなければならないが、現時点では令和10年度という時期について、保護者の方々に正式にお話ししているわけではない。今後、説明会を通じて保護者や地域の皆様のご意見を伺いながら、必要に応じてスケジュールや統合時期を調整していくことになる。前回の委員会で早く取り組まなければならないのではないかという課題認識が示されたので、令和10年度という時期を一つの目安として提示している。このスケジュール案を最初に示し、説明会などで関係者の意見を伺いながら、進めていくという方向性を取り組んでいきたいと考えている。

- 委員　　：児童生徒数の推移について資料を確認したが、統合後も児童生徒数の減少傾向は続く見込みである。小学校・中学校とともに、統合してしばらくは1学年2学級の状態が維持できるものの、長期的には1学年1学級となる可能性が高いと予測されている。このまま統合しただけでは、結局少人数学級の課題が再び顕在化することになる。したがって、統合後の学校が児童生徒や保護者にとって魅力的な学校となるよう、特色ある教育活動や施設整備など、何かプラスの材料となる学校づくりの工夫が必要だと思う。
- 委員長　：適正規模は1学年2学級程度が望ましいという話もあつた。前回の委員会では、200人くらいが八條中学校の学区にいて、そのうち100人くらいが指定校変更で八潮中や八幡中に行っているという話であった。200人くらいいれば2学級維持できるのではないか。
- 委員　　：指定校変更がないような魅力ある学校づくりをしていく必要があると考えられる。
- 委員　　：学区を見直すことで1学年2学級が維持できるように調整することが必要ではないか。
- 委員　　：学区自体が地域と結びついている状況ではあるが、最終的には何らかの形で見直していかなければならないという認識は必要だと思う。副委員長がおっしゃったように、統合してもすぐに生徒が減少するような状況では意味がない。複式学級をなくすために学区を見直すといった対応が必要と考えられる。
- 事務局　：学区の変更は避けられない課題である。特色ある学校づくりも検討していきたいと考えている。
- 委員長　：施設が一体型になれば、小中が今までの分離型に比べて教員や児童生徒の交流が進み、学びがつながることで新たな特色ある学校づくりが可能になる。子どもだけでなく、保護者も通わせたいと思うような学校になっていくのではないか。距離的に遠い、交通面で危ないという課題もあるが、教育体制が整えば、魅力ある学校に生徒が集まると思う。
- 委員　　：新しい学校ができて、学区が変わる場合、次に入学する生徒はどのタイミングで新しい学校に行くことになるのか教えてほしい。
- 事務局　：現行の規定では、先行して統合先の学校に行く仕組みにはなっていない。その年度で八條北小学校に行く場合はそちらに通うことになるが、その先は要相談になる。

- 委員　　：先行して統合先の学校に行く場合は残された生徒達は下の学年がいなくなり、寂しい思いをすることもあるので、どちらが良いのかは難しいと考えられる。
- 事務局　：急に八條小学校にみんなが行ってしまうと、残された子が少數になり、早い段階で複式学級ができてしまう。学校の適正規模は常に意識しているので、複式学級はできるだけ避けたいと考えている。
- 委員長　：保護者向けの説明会もあるので、令和10年度に統合となれば、保護者から早めに八條小学校に通わせたいという意見も出ると思う。複式学級が早くできてしまう可能性もあるので、時期や運用面については事務局でしっかり考えていただきたい。
- 委員　　：令和13年開校というスケジュールに変更はないのか。
- 事務局　：令和13年開校を目指している。説明会等を受けて、時期が動くこともあり得る。令和10年統合、令和13年開校というスケジュールについては、今のところ変わりないという認識で進めている。今後、説明会や保護者の意見を踏まえて、必要に応じて調整していくことも考えられる。
- 委員　　：八條北小学校はすでに一年生から1学年1クラスになっており、これを可能な限り早期に解消することが重要である。児童生徒数が少なくなると、部活動がどんどんなくなり、集団競技の部活もほとんどなくなっていく。自分が南部の小学校を経験した時は、女子生徒がクラスで8名しかいなくて、合唱で4人ずつしかいないので、誰かが休むと合唱にならないなど、学級が成立しなくなってしまうことがあった。人間関係が崩れると転校も考える生徒も出てきて、先生との距離感も難しくなる。八條北小学校の英語活動は素晴らしいものがあり、何度も見に行ったが、こうした特色ある活動を維持しつつ、課題を解消するためには統合が必要だと思う。
- 委員長　：今後複式学級が出てくることを考えると統合して小中一貫校化していくことが必要であり、それにより課題解決にもつながり、子どもたちが成長して社会に出た時の生きる力になり、八潮で働く人が増えることにもつながるものと考えられる。
- 委員　　：新設校や給食センターなど、予算がかかることが多いが、なんとか進めていくことが必要と考えられる。学校も給食センターも、南部と北部で子どもたちに格差があってはいけない。複式学級は作ってはいけないので、教育委員会にはしっかり頑張ってもらいたい。

- 委員長：今回初めて小中一貫校ができるという状況に向かってい
る。子どもたちがワクワクするような学校、安全面も考慮し
て、保護者が通わせたいと思う学校になってほしい。
- 委員：八潮市は小中一貫教育を始めて20年、学力向上など成果を
上げてきたので、さらに新しいモデル校ができることを期待
している。
- 委員：統合校を新設する際、災害時に避難できるようなインフラ
整備も一緒に進めてほしい。八條小学校は大雨が降ると校庭
に水がたまり、周りの道路が冠水して帰れないことがあった
ので対応していただきたい。
- 事務局：現在は集団で避難できるような入り口を新たに設け、消防
車が入れるようにするなどの対策を進めている。今後も、統
合校の新設にあたっては、災害時の安全確保やインフラ整備
について、関係課と連携しながらしっかりと検討・整備を進
めていく。

4. その他

5. 閉会